



神戸常盤大学

キャンパスレポート



建学の精神

広く学術の基礎となる知識及び技能を授けるとともに、深く専門の学問及び技術を研究・教授して、知的、道徳的に優れた技術者を育成し、また成果を社会に還元することにより、国家及び地域社会の発展に寄与すること。

www.kobe-tokiwa.ac.jp/univ/

「神戸常盤大学同窓会創立50周年を祝う会」を終えて

神戸常盤大学同窓会
会長 岡部 文雄



「神戸常盤大学同窓会創立50周年を祝う会」として、2019年6月23日に「総会・記念式典・懇親会」を開催することができました。

会には、母校から理事長・学長・本部長・事務局長・事務局次長に来賓としてご臨席いただいたのをはじめ、旧教職員・現教職員の方々、そして1969年(昭和44年)の短期大学開学時代の第1期生から2018年の卒業生までの幅広い世代の会員の皆様と、総勢で約180名の方々にお集まり頂きました。「祝う会」をこのように盛大に挙行できましたことに、感謝とお礼を申し上げます。

記念式典では、歴代同窓会会長による座談会を行い「同窓会の歴史と今後の展望」をテーマに、各会長には同窓会創立の苦勞から学校との関わり、同窓会の将来展望についてご発言いただき、同窓会の歴史を辿ることができました。

懇親会では、参加者の皆さんに懐旧いただけるよう、50年分のアルバムをパネルにして展示し、卒業生であり、パン職人でご活躍の松尾さん(ブーランジェリー レコルト)にご参加いただき、参加者全員にパンを提供していただきました。参加者の皆様が当時をしのび旧交を深め、そして、世代を超えて集い、祝うことができたこと本当に嬉しく思います。

当日は、不慣れな役員による運営で行き届かない点多々あったかとは思いますが、ご容赦いただければ幸いです。

今後も卒業生同士あるいは卒業生と在校生との繋がりを深め、“地域と歩みを共にする大学”を目指す母校に協力するためにも、創立50周年を迎えた同窓会が、さらに75周年、100周年へと続き発展していくことを共に願いたいと思います。今後共、会員の皆様お一人おひとりのご理解とご協力をお願い申し上げます。



岡部同窓会会長によるご挨拶



歴代同窓会会長による座談会



写真で振り返る50年



乾杯の様子

==== KOBE TOKIWA 健康ふれあいフェスタ2019 =====

令和になって初めて開催された『健康ふれあいフェスタ』も、2010年の第1回目から数えて今年で10回目を迎えました。来場者数は、末広がり888人。8という数字には、バランスと調和という意味があるようで、常盤の∞(無限大の)可能性を暗示してくれているのでは?と思っています。

このフェスタは地域の方々の健康を通じた交流を目的として始まったものですが、今では、子どもから大人、高齢者に至るまで楽しみにしてくださっているイベントとして定着し、遠くからお客様をお迎えしています。この時期に巡ってくるサーカスのように、すべての世代の地域の方々に楽しみにしていただいています。



臨床検査技師さんになろう



オーラルフレイルチェック



「TOKIWA健口応援手帳」を持って



なあタンとききワン



アロマハンドマッサージ



ときわ屋市

新しいコーナーも加わり、各エリアは大盛況で、人が一日中途切れることなくにぎわっていました。

健康エリアでは、毎年恒例の頸動脈エコーは、今年も長蛇の列。また、新たな企画として「オーラル(口腔)フレイル(虚弱)チェック」が仲間入りし、「健康寿命」への関心が浸透してきたこともあるのか、多くの方が参加され、真剣な様子で説明に耳を傾けていました。チェックを受けられた方々には、新しく作られた「TOKIWA健口応援手帳」が渡されました。

各ブースとも、長い列が出来て、忙しいにもかかわらず、学生たちがとても楽しそうに対応しているのが印象的でした。

屋外の飲食エリアでは、初めての試みとして、「ときわ昼市」を実施しました。秋の野菜の代表格であるさつまいもや南瓜など様々な野菜を、日頃お世話になっている本学周辺にお住いの皆様に感謝の気持ちを添えて、超低価格で販売し、短時間で完売となりました。子どもエリアからは、たくさんの笑い声が聞こえていました。

台風が心配された当日は、コースをはずれ奇跡的に天候に恵まれました。幼い頃「たいふういっか」の「いっか」を「一家」だと勘違いしていましたが、フェスタ当日の約300名の本学学生と神戸常盤女子高等学校の生徒の活動の中で見受けられた優しさと真剣さ、事前準備に奔走した教職員の姿は、まさに「一家(家族)」そのものだったのかもしれない。2020年には診療放射線学科という「家族」も増え、「地域と共に歩む大学」として更なる充実を図っていきます。

ご来場いただいた皆様、フェスタ開催にあたりご協力いただいた皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。次年度以降もフェスタ開催を予定しています。また常盤で皆様とお会いできることを楽しみにしております。



こども教育学科の学生による人形劇



あそびのひろば



豪雨災害への募金活動

福祉事業団との協定

2019年(令和元年)6月20日、社会福祉法人神戸聖隷福祉事業団(神戸市須磨区)の水野雄二理事長と本学園旭理事長により、包括連携に関する協定書調印式を執り行いました。当日は、本学濱田学長、神戸常盤女子高等学校木村校長にもご出席いただき、活発な意見交換が行われました。

また、9月11日には、職員数15,000人を超える社会福祉法人聖隷福祉事業団(静岡県浜松市)と地域創生に寄与するため、

包括連携に関する協定を締結し、調印式を執り行いました。同事業団からは鎌田裕子理事、そして人事採用関連部署におられる4名にご出席いただきました。「福祉」「教育」「保健」「医療」などの分野において、地域社会に貢献できる人材育成を達成するため、互いに連携・協力することを確認いたしました。この協定をベースにした今後の取り組みにご期待ください。



神戸聖隷福祉事業団の方々と



聖隷福祉事業団の鎌田理事と

実習体験記



看護学科2年
澤田 るか

基礎看護学実習を終えて

私が受け持ったAさんは、誤嚥性肺炎と腕や足に痛みがありました。1週目は一日中ベッド上で過され、腕や足に触れると「痛い痛い」と訴えられることが多く、会話をするのも困難な状況でした。しかし2週目に入ると、前週の状態が嘘のように良くなりました。この変化は薬によって痛みが緩和されたからだと思います。私はこれまで考えていた看護計画をAさんの日常生活動作に合わせて変更しました。すると、1週目は全介助だった食事は自分で食べられるようになり、全介助だった全身清拭はシャワー浴に行けるまでになりました。そして、シャワー浴後Aさんから「座って外が見たい」という意思表示があり、私とAさんは景色を見ながら沢山話をしました。Aさんは日常生活動作拡大だけでなく、自分らしさを取り戻されたように見えました。この変化は、薬の力だけでは見られなかったと思います。Aさんに必要だった援助がAさんに合うタイミングで実施できたことで得られた変化だだと思います。Aさんを通して、看護の力や重要さに気付くことができました。



看護学科1年
井上 真穂

看護活動基礎実習を終えて

実習では教科書の知識を自分の目で確かめることができました。病院では、医師、看護師が患者さんのために行動することはもちろん、病院内は、すべて、患者さんが心身ともに安心し、健康に生きていけるように構成されていました。また、そこには、ナイチンゲール著の『看護覚え書』に記されていた療養環境がありました。一番印象的だったことは、看護師みなさんのコミュニケーション能力の高さでした。それぞれの患者さんにあった、目線、価値観で会話をおこなっておられました。私は、看護師になるという、曖昧な目標しか立てていませんでしたが、実習で、このようになりたいと思う看護師の方に出会えました。その人になれるか不安もありますが、それは、これからの大学生活でたくさん学び、取り除いていきたいと思っています。また、看護師資格の勉強だけでなく、経験を通して人間として成長していきたいと思っています。



こども教育学科3年
中村 優奈

教育実習を終えて

私が15年前に通っていた母園での教育実習は、先生方が「おかえりなさい」の声で迎えて下さったことから始まりました。その一言で緊張感が一気にほぐれ、安心して実習のスタートラインに立つことが出来ました。実習中は指導案を何度も書き、制作活動の指導を3回、歌唱指導を1回させていただきました。すべての活動を通して学んだことが1つあります。それは、全体に目を配る大切さです。4歳児と5歳児が合同の35人クラスだったため、机と椅子を並べると保育室いっぱいに子どもたちが座っています。私が最初に制作を行った時、前の方に座っている子どもたちにばかり声を掛け、保育室全体に目を配ることができませんでした。すると、後ろの席の子どもたちの制作に対する興味が段々薄れてしまいました。「自分から遠い席の子どもたちにも声を掛けながら活動を進めると、子どもが『先生は自分のことも見てくれている』『頑張ろう』という気持ちになるのよ。」と先生にご指導いただき、保育者としてクラス全体が楽しめるよう配慮する大切さを痛感しました。実習を終えた今、これから1年間さらに勉学に励み、子どもについての知識や人前に立つ自信を身につけたいと強く感じています。実習での学びや気付きを活かしながら、立派な保育者になれるよう頑張ります。



口腔保健学科3年
田村 美結

臨地実習を終えて

この一年弱の臨地実習期間は、長いようでとても短く感じました。初めての实習は不安でいっぱいでしたが、いざ実習に行ってみると実習先の歯科衛生士さんたちは優しく、たくさんの知識や技術を教えてくださいました。今まで教科書でしか習ったことがないような治療を実際に見ることで、理解が深まりました。さらにその日疑問に思ったことや、初めて見た治療・器具などを家に帰ってから教科書で復習すると、納得することがたくさんあり、いつしか実習が楽しいものになっていきました。そして、もっと知りたい、深く学びたいと思うようになりました。他にも、現場でしかわからない患者さんへの気遣いや、医院全体を見て行動している姿は本当に勉強になり、憧れになりました。この実習期間を通して、やはり一番感じたのは感謝です。先生方や各実習先の指導者さん、家族、友人など、支えてくださった全ての方々のおかげで私は成長することができました。本当にありがとうございました。これから、臨地実習を通して学んだことを生かし、さらにレベルアップしていきたいです。



看護学科通信制課程2年
板倉 真由美

臨地実習を終えて

統合失調症で入院中の青年期男性A氏の作業療法に同席した時の事です。A氏は課題である翌月のカレンダーを塗る作業を途中中断し、スタッフに今月のカレンダーを下さいと求めました。私は今月の家族面会予定日を記録するために求めたのではないかと推測しましたが介在できず、交渉は却下されました。そのため、私はA氏の下承を得、当月の日付を付け加えました。A氏は納得し面会日にハートマークを付け、課題の作業を再開しました。しかし後日この場面を振り返ると、スタッフは課題への再取組みを促す常識的な対応をしたと気づきました。私がA氏を促し、A氏自身が思いを整理しスタッフに意図を伝える事ができたなら、A氏とスタッフ間で良好な会話が成立していた可能性があります。看護は患者のニーズが満たされるように橋渡しをし、患者が成長を遂げるようにする教育的役割があると気づいた場面です。この反省と学びを今後、活かしていきたいと思っています。

海外研修

ボストン

大学コンソーシアムひょうご神戸 学生派遣プログラム

医療検査学科3年 芝地 朱音



私たちはボストンMassachusetts General Hospital(MGH)、ニューヨーク Memorial Sloan Kettering Cancer Centerなど様々な病院、企業に訪問させていただきました。印象的だったことはPOCT機器の技術が進んでいて、臨床検査技師以外の使用者の教育にも力を入れていた点です。病理では3D化デジタル研究が進み、1枚の標本から多くの情報が得られるようになっていました。アメリカの最先端医療について学ばせていただき、改めて日本の病院についてもっと深く学んでいきたいと思うようになりました。

アメリカの臨床検査技師は、本当に自分の好きな分野に携わり、生き生きと仕事をされていて、私も自分の仕事に誇りを持った臨床検査技師になりたいと強く思うことができました。



ボストン Massachusetts General Hospitalにて



ニューヨーク Memorial Sloan Kettering Cancer Centerにて

ネパール

大学コンソーシアムひょうご神戸 学生派遣プログラム

医療検査学科1年 鹿谷 美空



私たちは大学コンソーシアム学生派遣プログラムでネパールを訪れ、ネパールの学生の方と街中の水道水や下水道水等を集め水質調査を行いました。ほとんどの水道水で残留塩素濃度が基準に達しておらず、またアンモニア濃度が高いものがあり、水道整備などが整っていないことがわかりました。その原因として水道と下水が横一列にあるため、下水が入ってくるのが考えられました。またネパール医科大学付属病院を見学した際、機械化が進んでいる反面、看護師が少なく、患者家族が付きっきりで看病して

いたり、日本との違いを感じました。研修を通して、普段経験できない体験をすることができました。ネパールの学生や現地の方と共に活動でき、とても有意義な研修となりました。



現地での実験



ネパールの検査技師を目指す学生たちと

ネパール

大学コンソーシアムひょうご神戸 学生派遣プログラム

看護学科4年 高見 美晴



私たちは、首都カトマンズとバクタプルを訪れ、様々な医療施設や教育施設の見学、現地の方々と交流しました。ユネスコの寺子屋プロジェクトで地域の人に向けた健康チェックとして、血圧測定なども実施しました。ネパールでは乳児死亡率が高く、感染症患者が多いことから、予防医療が発展していないのではないかと考えていました。しかし、乳児死亡率を下げるためボランティア活動やワクチン接種など一次予防にも力を入れていました。さらに減らすためには、環境の整備や政治との連携が必要だと学び、医療に

とどまらず様々な視点をもつ大切さに気がきました。この研修で、日本とネパールの医療の違いを知るだけでなく、ネパールの歴史、経済、暮らしぶりなど多くのことを知ることができました。



寺子屋プロジェクトでの健康チェックの様子



ネパールの看護師を目指す学生たちと

シカゴ

3年選択科目・海外研修

口腔保健学科3年 生尾 梨紗



海外研修では、Hu-Friedy社、アメリカ歯科医師会館、サンスター社の見学を行い、アメリカでの医療体制や、歯科医療器具一つ一つが、沢山の行程を経て製作されていることを学びました。市場調査では、ホワイトニング剤や応急処置用の詰め物が販売されていて、日本に比べて膨大な数のオーラルケア用品が揃えられていることから、口腔への関心が高く、一般の方でも日常的に幅広い商品が手に入るようになっていと感じました。また、歯科衛生士の養成校へお伺いして、英語でのプレゼンテーションや、学生の方々が実際に患者さんの口腔

衛生管理を行っている様子を見学を行いました。同じ歯科衛生士を目指していても、環境や勉強内容、医療人としての姿勢など違いがあると感じましたが、患者さんの健康を思う気持ちは、どの国でも同じだと改めて実感することができました。海外研修を終え、日本でもアメリカのように歯科衛生士という職業が確立され、現在より活躍できるよう、今回の経験を活かし、自主性を持って学んでいこうと思います。



Fox Collegeの学生とのパネルディスカッション



Hu-Friedyの歯科衛生士による講義

小豆島プロジェクト

こども教育学科2年 山谷 隆馬



地域交流とリーダー育成を目的として毎年行われている小豆島プロジェクト(授業科目「地域との協働B」)に、全体リーダーとして参加しました。受講生の2年生全員がグループリーダーとなり、4月から8月にかけて、現地スケジュールの作成や、1年生への参加の呼びかけ、学生と教職員の顔合わせなど、事前準備を進めました。はじめは話し合いが進みませんでした。が、合宿が近づくにつれて意欲も高まり、協力しあって計画を立てることができ、小豆島での活動が始まりました。

プロジェクト2日目、土庄こども園での実習が、特に印象に残っています。昨年度の実習では、緊張して子どもとうまく関わらなかった私は、今回こそはと自分から積極的に話しかけました。すると、

すぐに子どもたちが寄ってきてくれました。人見知りをする子もいましたが、ほとんどの子どもと関わることができました。午睡の時間には、園の先生方と幼児教育についてお話をさせていただきました。小学校の教員を目指す者として、就学前の子どもたちの様子を知っておかなければなりません。現場で働く先生方のお話を聞いたことは、大変貴重な機会となりました。

専門職に就くことを意識し、小豆島プロジェクトでの経験や学びを今後活かしていきたいと思えます。



土庄こども園での実習



集合写真



地域との協働体験

第8回神戸常盤学術フォーラム

KTU研究開発推進センター長
看護学科 教授 中田 康夫



8月22日、「第8回神戸常盤学術フォーラム」を開催し、89名の方々にご参加いただき、盛況のうちに終了することができました。従来、10月の土曜日に開催していましたが、諸般の事情を鑑み、本年度は8月の平日に開催させていただきました。

本年度は「研究ブランディング事業」の最終年ということもあり、

第1部では、特命准教授の國崎先生より『教育と研究を両輪とする高等教育のあり方とは—高等教育改革のゆくえ—』をテーマとした講演、それに引き続き濱田学長から『本学における今後の研究方向について』述べていただいた後、わたくしから『研究ブランディング事業の継承・発展と大学の特色化—KTU研究開発推進センターの役割—』について説明させていただきました。

國崎先生によると、大学生生き残りのためにも今後ますます教員の研究力が求められるとのことですので、本センターとしましても、今まで以上にその役割を遂行させていただきたいと考えております。



國崎先生による講演会



ポスター発表

ときわ幼稚園通信



神戸常盤大学附属
ときわ幼稚園 教諭
泉 沙甫

ときわ幼稚園では、大学の先生方の協力を得て「ときわキッズクラブ」を開催しています。

音楽や体を使った遊び、自然の中での遊び等教育学部の先生方を中心に、それぞれの専門分野での知識や技術を生かして、子どもたちに活動の楽しさを伝えてくださっています。子どもたちも毎回参加を楽しみにしています。

本年9月にはマリーゴールドをつかって染色をしました。真っ白なTシャツにゴム止めをし、マリーゴールドを煮出した液につけると、あっという間に真っ白なTシャツがマリーゴールドの黄色に染まりました。Tシャツに止めたゴムを外し、広げてみると、ゴム止めをしていたところが白く残り、いろいろな模様が出来上がりました。「私のTシャツ、こんな模様!」「かわいいでしょ?」と子どもたちは大喜びでした。「今日はマリーゴールドの服で来たよ」と嬉しそうにTシャツを着ています。

大学との連携がとりやすい環境にあるのは附属幼稚園ならではのことだと思います。今後も子どもたちの経験の幅を広げ、健やかな成長に繋げていきたいと思っています。



マリーゴールドのTシャツ
(ときわキッズクラブ)



37期生同窓会開催

幼児教育科37期生
衛生技術科37期生
衛生技術科37期生

三倉 敏浩
前田 武雄
穴戸 優



神戸常盤大学(当時は神戸常盤短期大学)を卒業後も14年間、忙しくても定期的に会うようにしていたバスケットボール部OBの3人組。事の発端は昨年末に久しぶりに集まった時の「そういえば、常盤の37期生のミニ同窓会なんか出来たらおもしろいね!」の一言から。(お酒の勢いで)「じゃあ大学でできるか問い合わせよう!」「全部の学科にも声を掛けよう!」と威勢よく企画は進んでいきましたが、当日の参加人数は予想に反して文字通り「ミニ」同

窓会という人数…。それでも、光成研一郎先生(現 こども教育学科長)や元バスケ部顧問の末吉千恵子先生にも参加いただき、大学事務局の皆様方に思い切り助けていただいた結果、当日は小規模でありながら、懐かしのキャンパス風景に昔話の花が咲き、充実したひとときとなりました。早くも次回企画の要望の声も多く聴こえているので、(人望のなさに挫けずに)また37期生が常盤に集まる事ができるような「ミニ」ではない同窓会を企画していきたいと思っています。



末吉先生の挨拶



集合写真

震災学習ツーリズム

2019年(令和元年)9月10日、(株)JTB福島支店と連携し、本学が企画・コーディネートを行い、福島県立郡山高等学校の2年生259名を対象に、修学旅行一日目のプログラムとして震災学習ツーリズムを実施しました。当日は9つのコースに分かれ、新長田の商店街などいくつもの象徴的な場所で、本学のネットワークを活用、招聘した語り部の皆さんから話を聴き、本学学生アテンドによるまち歩きを行い、震災からの復興の経過を肌で感じてもらい

ました。まち歩きゴールである本学ハローホールにおいて看護学科中田康夫教授を始めとする本学教員によるワークショップを行いました。まもなく阪神・淡路大震災から25年の節目となります。長田の街での復興に向けた工夫や課題を東北の復興を支えていく若い世代に伝えると同時に、我々自身が改めて意識する、このような学びの循環が記憶の風化をとどめ、復興の一助になるものと信じています。

第53回 常盤祭



第53回 常盤祭を終えて

常盤祭実行委員長 こども教育学科2年 藤本 秀太



10月26日・27日の両日「あなたの番です～常盤編～」をテーマに第53回常盤祭を開催しました。神戸常盤大学・神戸常盤大学短期大学部の学生は、日頃から勉学に励みつつ、充実したキャンパスライフを楽しんでいます。今年度の常盤祭では、共に勉学に励む仲間や、日頃から支えてくださっている地域の皆様へ、最良のおもてなしをお贈りしたいと思い、俳優の田中圭氏をお招きしました。常盤祭スタッフ一同は、先輩方の意志を継ぎ、各々の力を発揮するべく何度も打ち合わせを重ねました。ホッとする時間・空間の提供と、幸せな時間を共有したいというスタッフの思いは届きましたでしょうか？第53回常盤祭にお越しいただいた皆様、地域の皆様、ご支援・ご協力を賜りました関係者の皆様、心より感謝し、厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。

診療放射線学科認可

2019年(令和元年)6月末に設置が認められていた本学の保健科学部診療放射線学科(定員75名)が、同年8月27日に「診療放射線技師養成校」として指定を受けました。2020年(令和2年)4月1日付をもって、兵庫県初の診療放射線技師養成大学が誕生します。